

Internet Explorer 8 にて発生する事象及び対処方法について

平成23年 9月16日更新

平成23年 6月10日更新

平成22年 7月27日更新

平成22年 3月12日更新

平成21年10月28日

コア開発リリースG

コアシステムサービスセンタ

コアシステムにおいて Internet Explorer 8（以下 IE8）を使用する場合に発生することが確認された事象とその対処方法につきまして、以下に説明します。

表1 コアシステムにおける IE8 にて発生することがある事象

項番	IE8 で確認された事象	対処方法
1	画面遷移時にスクリプトエラーが発生する場合があります	セキュリティ更新プログラム「[MS09-019] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム」を適用する。 ※
2	添付ファイルを提出する際にファイルパス情報が消失し提出できない	以下のいずれかにより回避可能。 ① Windows XP SP2 対応としてアナウンスしている「信頼済みサイトへの登録」を行う ② オプション設定変更
3	画面が崩れて表示される場合があります	以下のいずれかにより回避可能。 ① オプション設定変更 ② コアシステムの Web サイトを互換表示対象の Web サイトに登録する
4	ファイルパス編集ボックスに直接入力できない	「参照」ボタンを押下してファイルを指定する。 (コアシステムの基本操作)

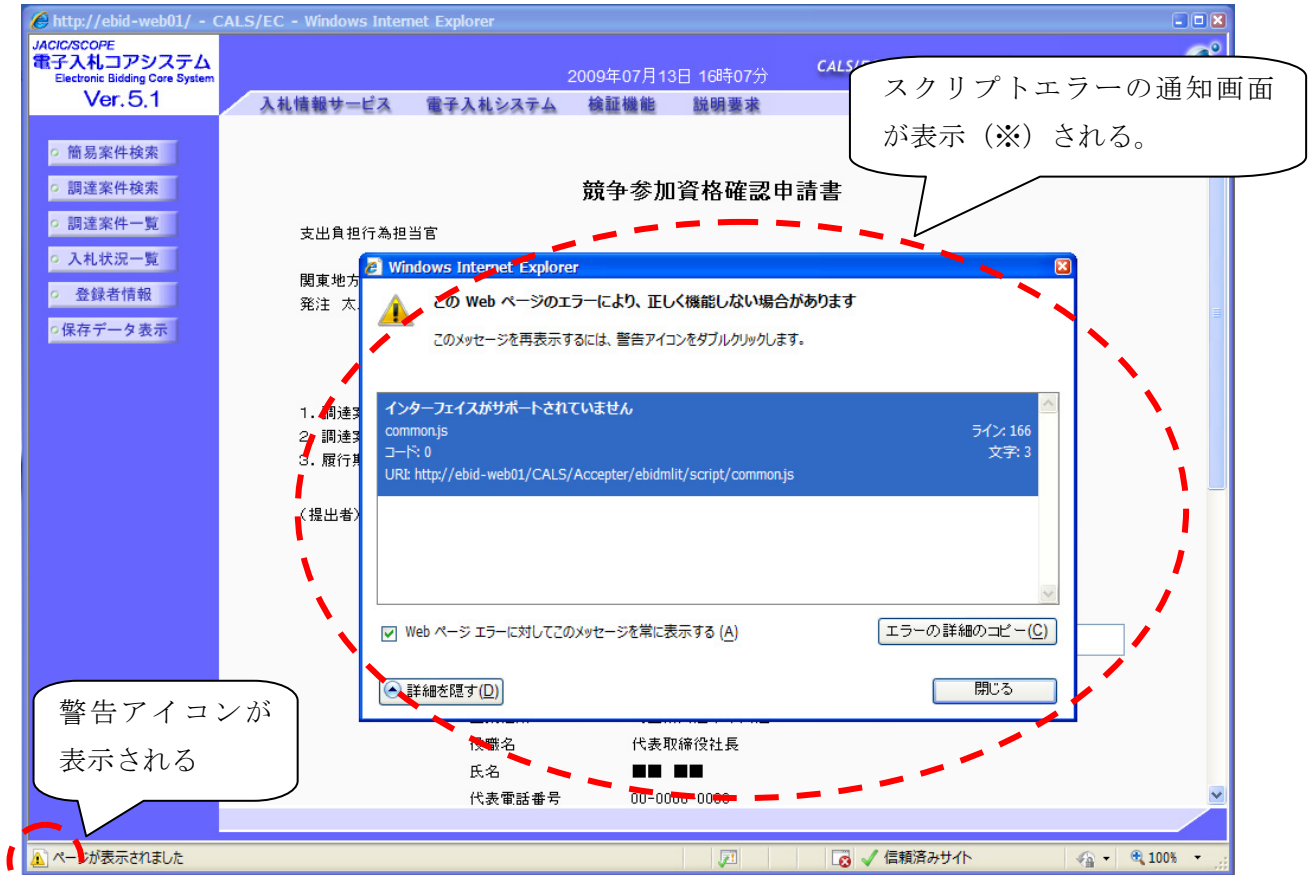
※ Windows 7 では、セキュリティ更新プログラム「[MS09-019] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム」の不具合は修正されていますので、本対処は不要です。

Internet Explorer 7（以下 IE7）使用時に発生しうる事象のうち、一部事象に関しては、IE8 においても発生します。事象の詳細及び対処方法は IE7 の場合と共通です。サービスセンタ HP コアシステム関連情報「Internet Explorer 7 への対応について」に掲載の資料「Internet Explorer 7 製品版に関する事象および対処法について」をご参照ください。当該資料の項番 3～5 が対象です。

【1】 画面遷移時にスクリプトエラーが発生する場合がある

<事象>

通信中ダイアログが表示された後、画面が遷移するタイミングで、時折以下の画面のようなスクリプトエラーが発生することがあります。



※ エラーの通知画面は、「インターネット オプション」の「詳細設定」タブ内にて、「スクリプトエラーごとに通知を表示する」にチェックをつけている場合、エラー発生の度に表示されます。

なお、上記スクリプトエラーが発生した場合でも、特に問題なくコアシステムの操作を続行することが可能です。

<回避策>

Windows Update にてセキュリティ更新プログラム「[MS09-019] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム」または[MS09-019]を含む更新プログラム（サービスパック等）を適用することで、本事象が発生しなくなることを確認しております。

セキュリティ更新プログラム[MS09-019]の詳細につきましては、以下の HP を参照ください。

- ・ [MS09-019] Internet Explorer 用の累積的なセキュリティ更新プログラム
<http://support.microsoft.com/kb/969897>

【2】 添付ファイルを提出する際にファイルパス情報が消失し提出できない

<事象>

The screenshot shows the CALS/EC web application interface. The browser window title is "CALS/EC - Windows Internet Explorer" and the address bar shows "http://ebid-web01/CALS/Acceptor/EbController". The page header includes the date "2010年03月04日 14時41分" and the system name "CALS/EC 電子入札システム". The main content area contains a form with the following fields:

- 企業住所
- 役職名: 代表取締役社長
- 氏名
- 代表電話番号: 03-0000-0000
- 代表FAX番号: 03-0000-0001
- 部署名
- 商号(連絡先名称)
- 連絡先氏名
- 連絡先住所
- 連絡先電話番号
- 連絡先E-Mail

A callout box points to the "連絡先E-Mail" field, stating: "架空のパス情報が表示され、添付ファイルを特定できず、申請書や入札書を提出することができない。" (Fictitious path information is displayed, making it impossible to specify the attachment file, thus preventing the submission of applications or bids.)

Below the form, there is a section for attachments. The "添付資料" (Attachments) field shows a file path: "C:\fakepath\参加申請資料.doc". To the right of this field are buttons for "添付資料追加" (Add Attachment), "表示" (Show), "削除" (Delete), and "E*検証用添付資料参照" (Reference Attachment for E*Verification). Below this section, there is a note: "※ 添付資料の送付可能サイズは1MB以内です。ファイルの選択は1行毎に行ってください。尚、添付ファイルは、ウイルスチェックを最新版のチェックデータで行ってください。" (Note: The maximum size for attachments is 1MB. Please select files one by one. Also, please use the latest check data for virus checking on attachments.)

At the bottom of the form, there are buttons for "提出内容確認" (Check Submission Content) and "戻る" (Back).

<回避策>

以下のいずれかの方法により回避可能です。

- ※ ①-1の方法は、コアシステムのWebサイト個別に設定が有効となるのに対し、①-2および②の方法はコアシステム以外のWebサイトに対しても設定が有効となります。
このため、特別な事情が無い限り極力①-1の方法でご対応ください。

① 信頼済みサイトへの登録

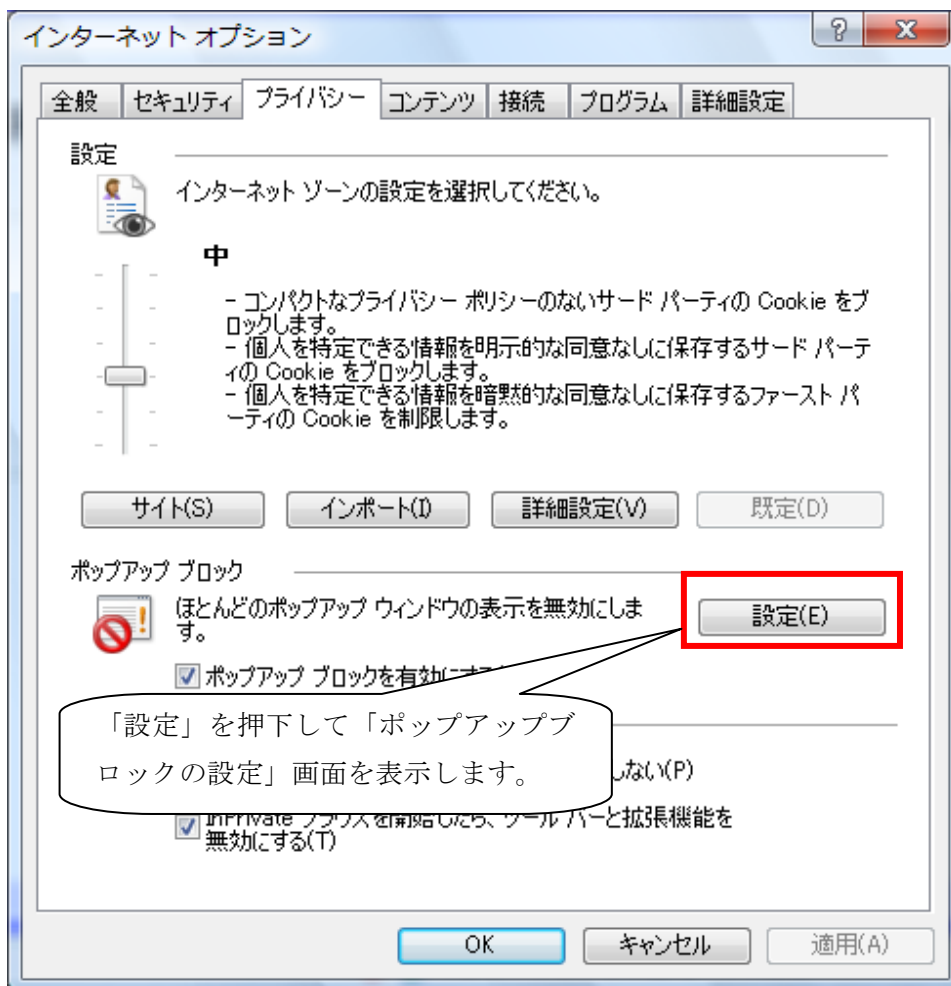
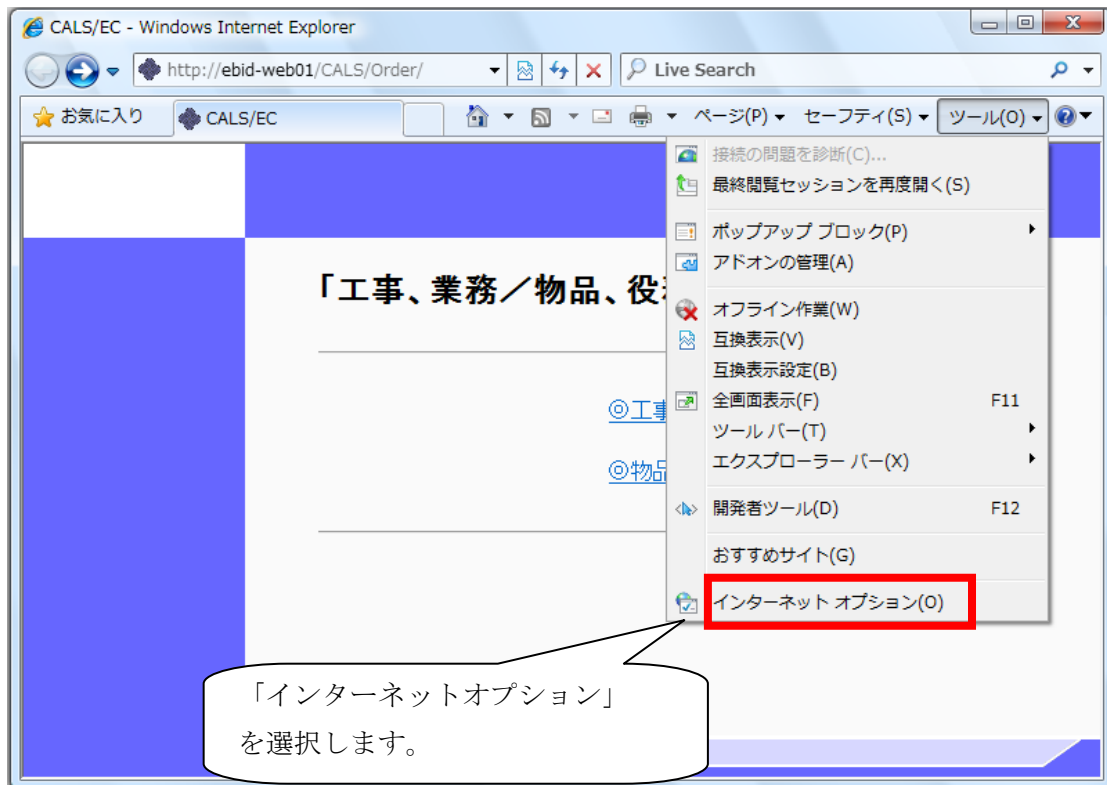
コアシステム関連情報に掲載しております、「Windows XP Service Pack2 の利用について」の「信頼済みサイトへの登録」を実施することにより回避可能です。

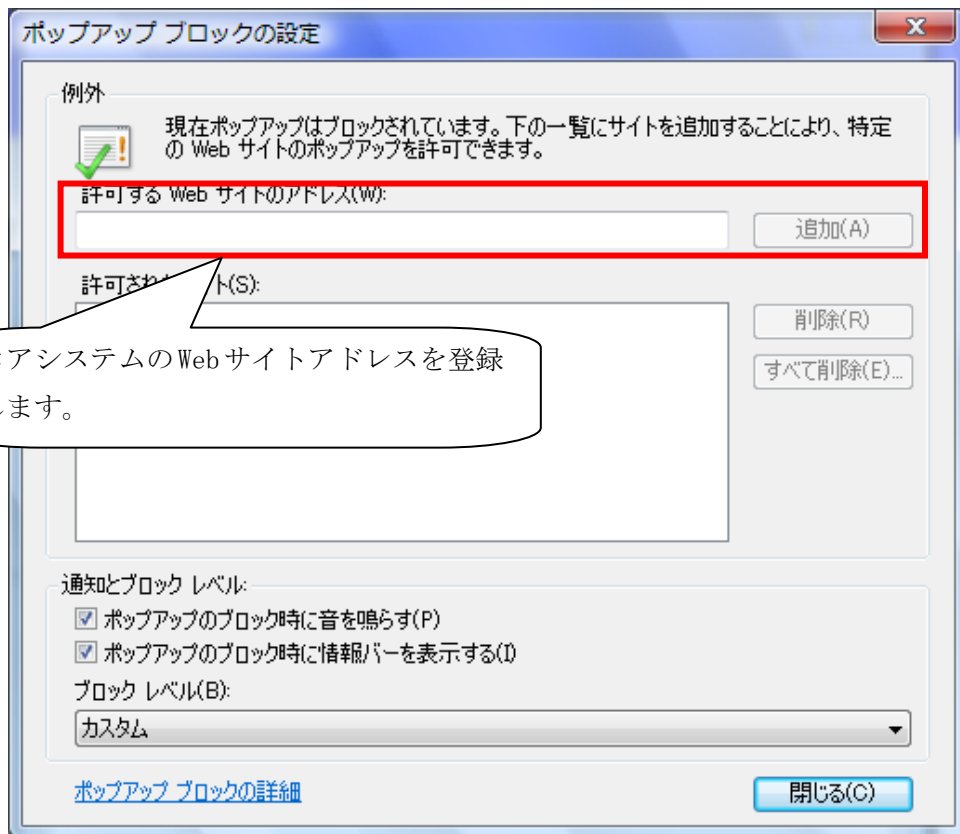
ただし、IE8 では信頼済みサイトにおける「ポップアップブロックの使用」オプションの既定値が「有効にする」に設定されていますので、以下の①-1/①-2いずれかの方法でポップアップブロックを無効にする必要があります。

①-1 ポップアップを許可するサイトへの登録

以下のとおりに「インターネットオプション」「プライバシー」「ポップアップブロック」の設定画面にてコアシステムのWebサイトアドレスを「許可するWebサイトのアドレス」に登録します。





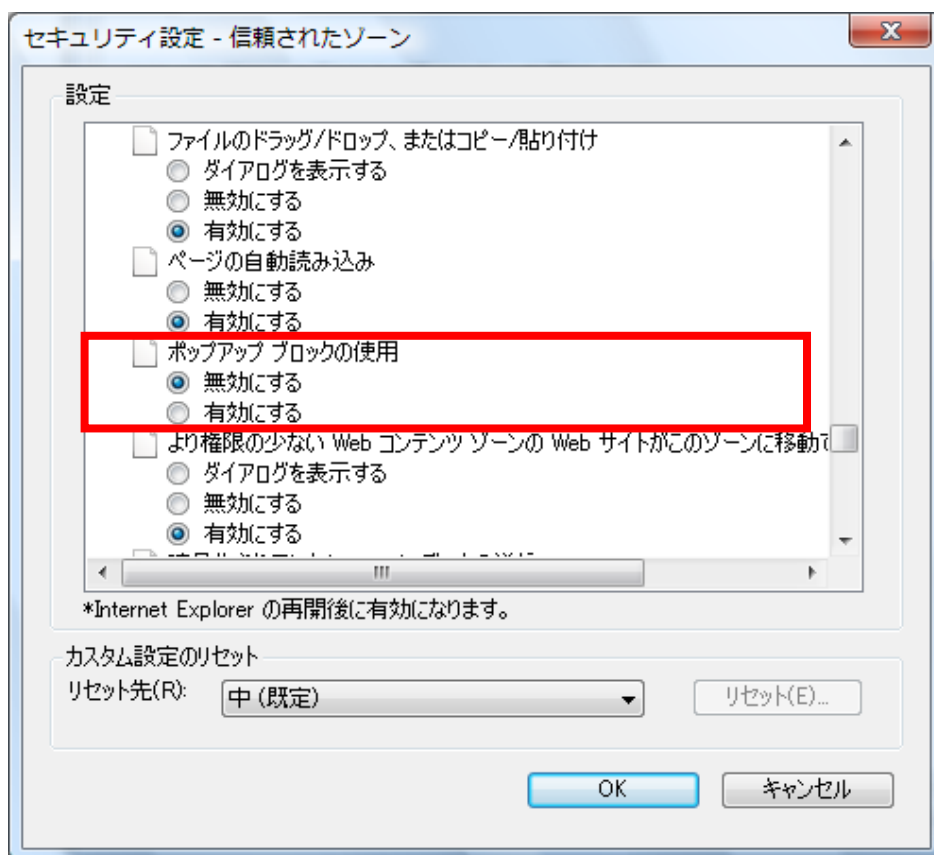


①-2 信頼済みサイトのポップアップブロック使用を無効にする

以下のとおりに「インターネットオプション」「セキュリティ」「信頼済みサイト」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、「ポップアップブロックの使用」を「無効にする」に変更します。

(注意)

本設定によって「ポップアップブロックの使用」オプションの設定を無効にした場合、コアシステム以外の信頼済みサイトにアクセスした場合においてもポップアップブロックが無効となります。

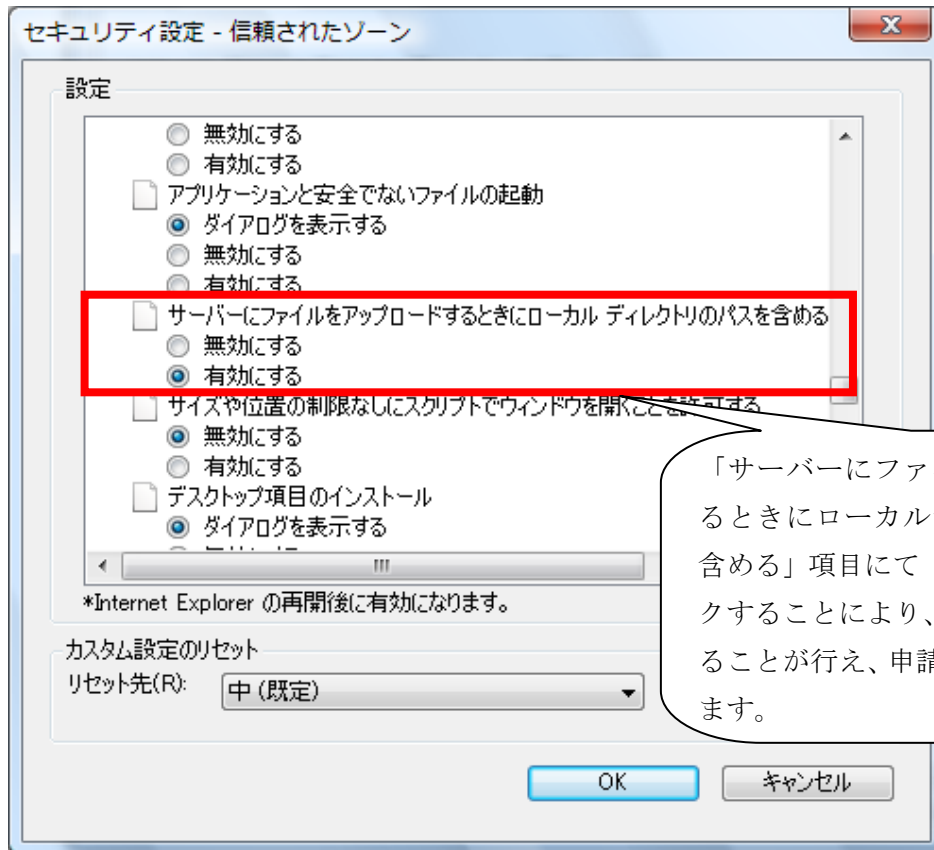


② オプション設定変更

「インターネットオプション」「セキュリティ」の「レベルのカスタマイズ」設定画面にて、以下の設定を変更することで回避できます。

(注意)

本設定によって「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」設定を有効にした場合、コアシステム以外のサーバーに対してファイルをアップロードする際もローカルディレクトリのパス情報が送信されます。



<補足>

信頼済みサイトのセキュリティレベルが「中高」以上の場合

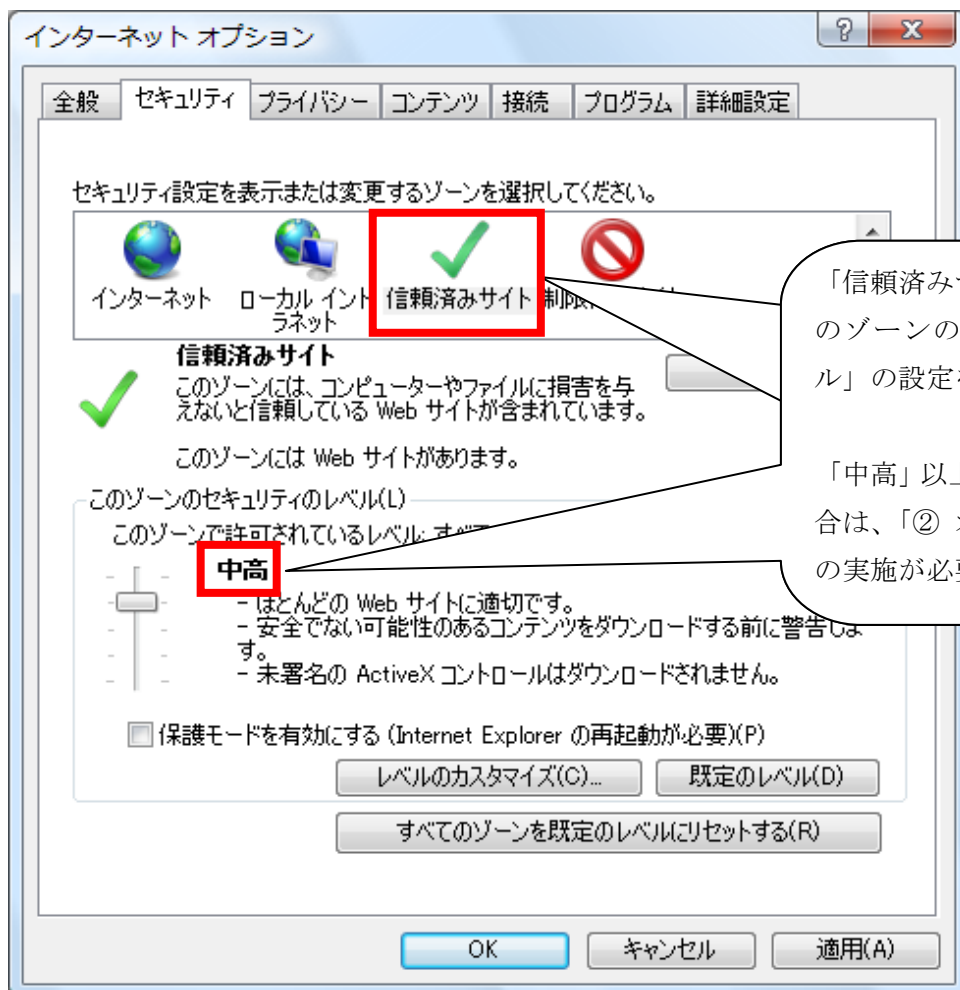
IE8 のデフォルトでは、信頼済みサイトのセキュリティレベルは「中」に設定（※）されていますが、設定が変更されている場合があります。この場合、「① 信頼済みサイトへの登録」のみでは回避できませんので、「② オプション設定変更」の実施が आवश्यकです。

（※）参考「Web からファイルを開いたりコピーしたりできない理由」

<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows7/Why-cant-I-open-or-copy-files-from-the-web>

[信頼済みサイトのセキュリティレベルの確認方法]

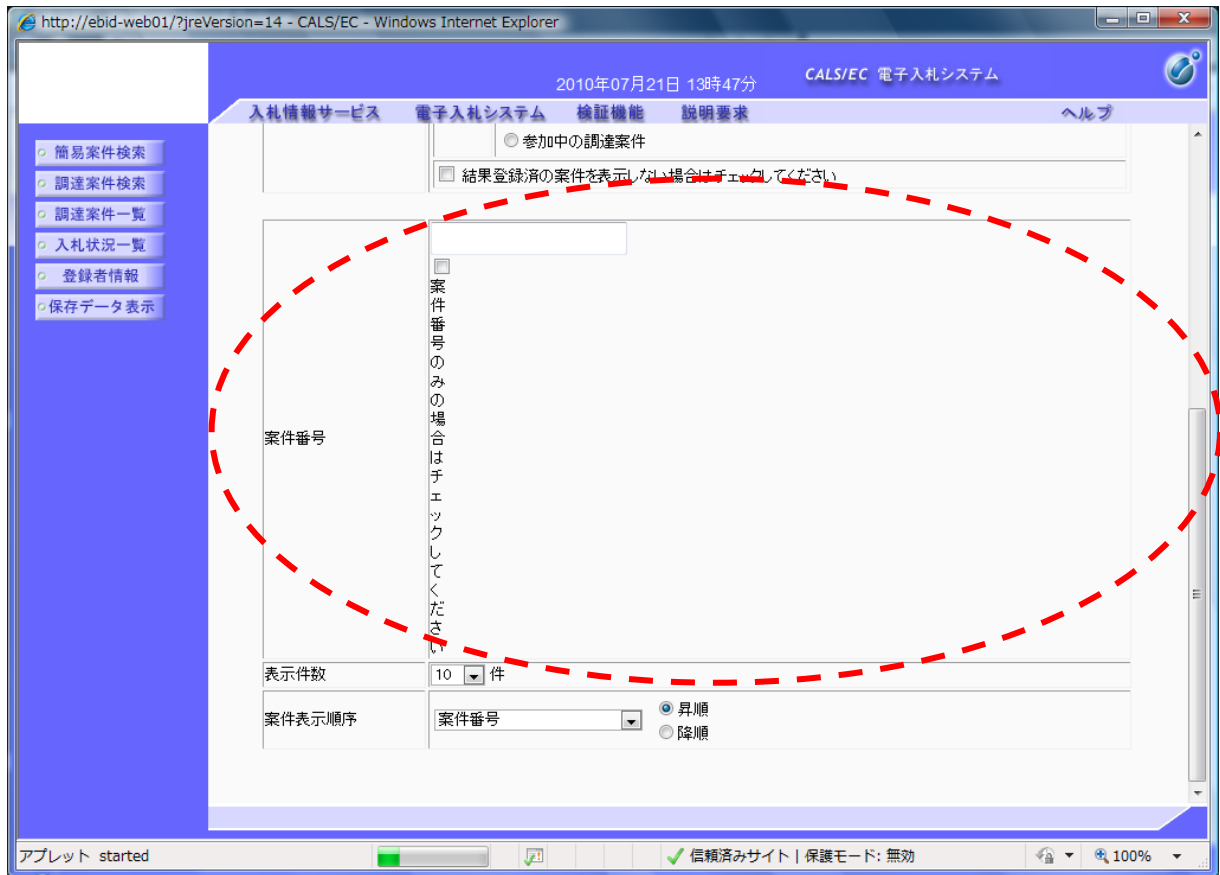
以下のとおりに「インターネットオプション」「セキュリティ」の設定画面にて「信頼済みサイト」を選択後、「このゾーンのセキュリティのレベル」の設定値を確認します。



【3】 画面が崩れて表示される場合がある

<事象>

特定の条件で画面が崩れて表示されることがあります。



<回避策>

以下のいずれかの方法により回避可能です。

※ ①の方法は、一度の設定ですべての Web サイトに対して設定が有効となります。1 台のクライアントで複数のコアシステムに接続している場合に有効です。これに対し、②の方法は、Web サイト個別で設定が有効となります。1 台のクライアントで複数のコアシステムに接続している場合、接続先毎に設定が必要となります。

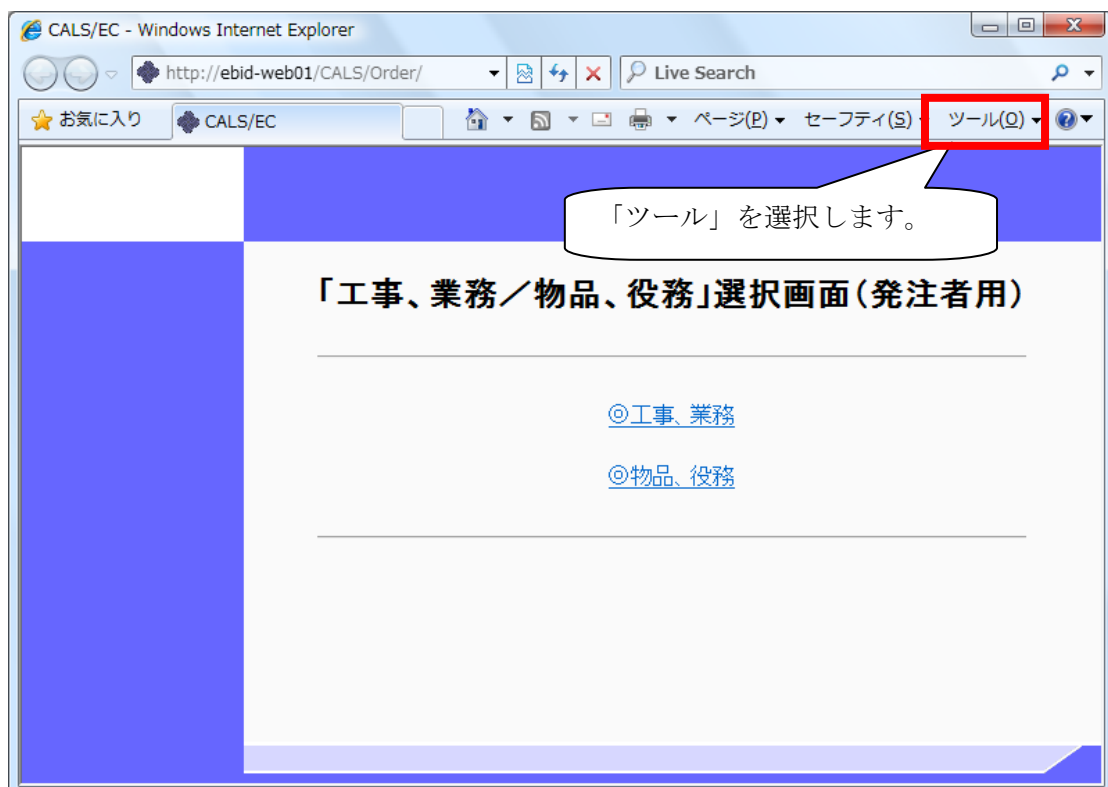
このため、特別な事情が無い限り極力①の方法でご対応ください。

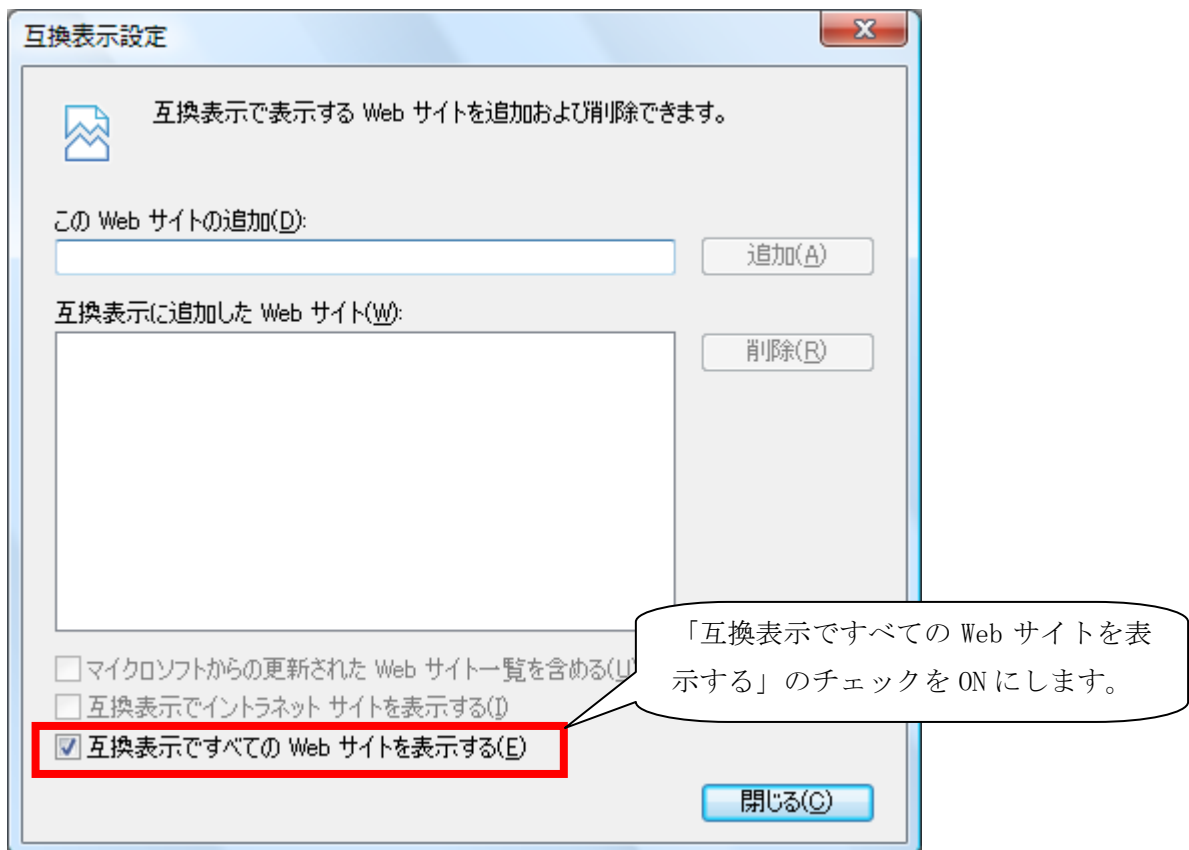
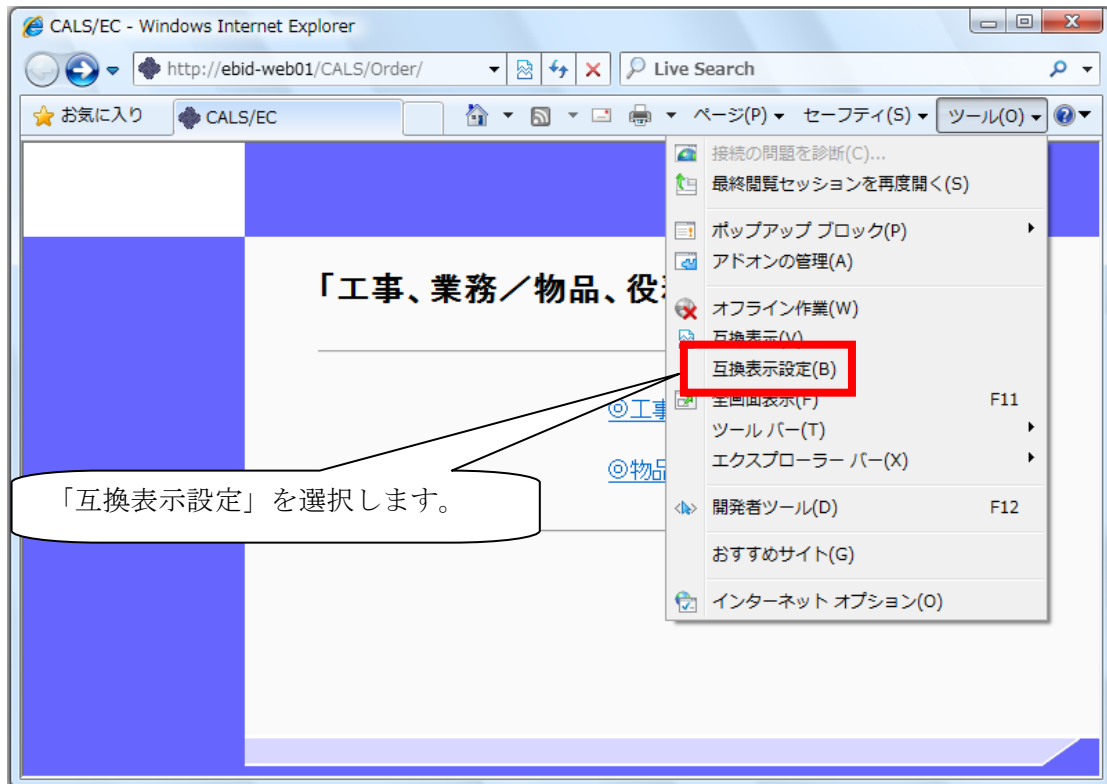
① オプション設定変更

以下のとおりに「ツール」「互換表示設定」の設定画面にて「互換表示ですべての Web サイトを表示する」のチェックを ON にすることで回避できます。

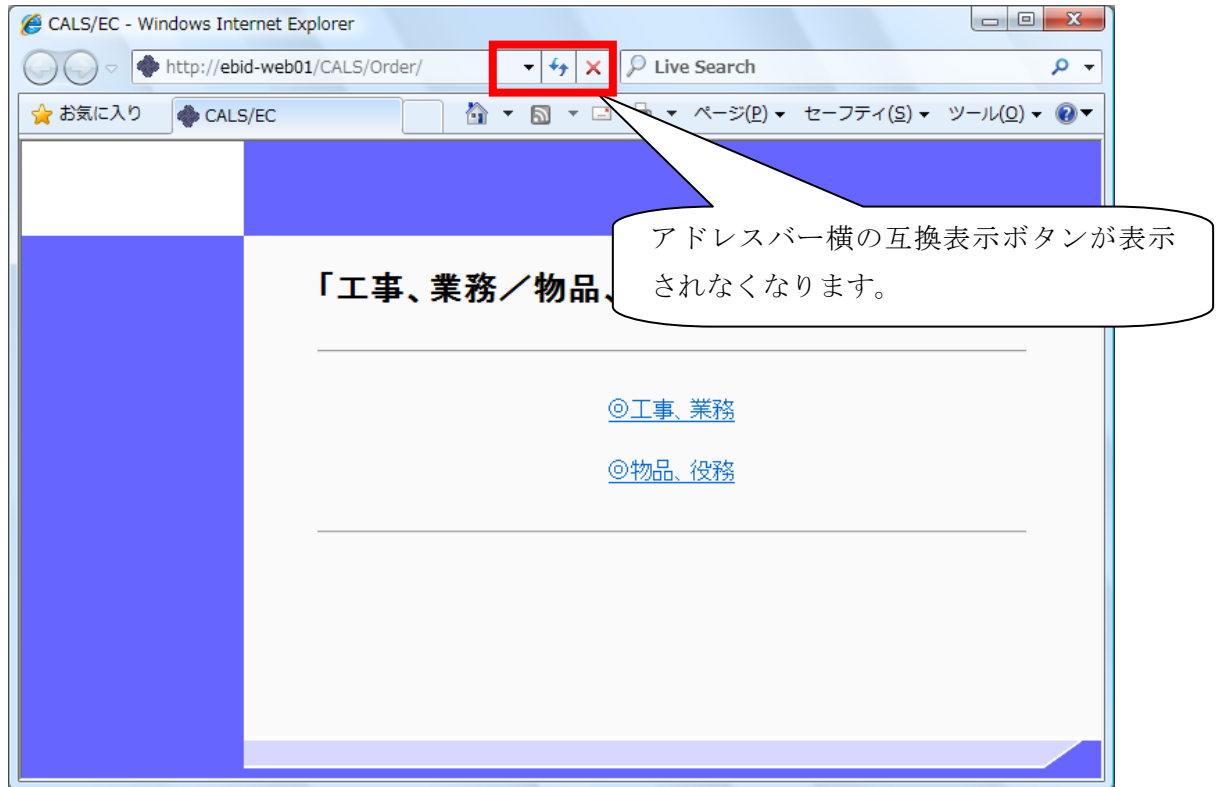
(注意)

本設定はコアシステム以外の Web サイトに対しても有効となります。





一度設定すると、以後全ての Web サイトが互換表示されますので、ブラウザのアドレスバー横の互換表示ボタンが表示されなくなります。



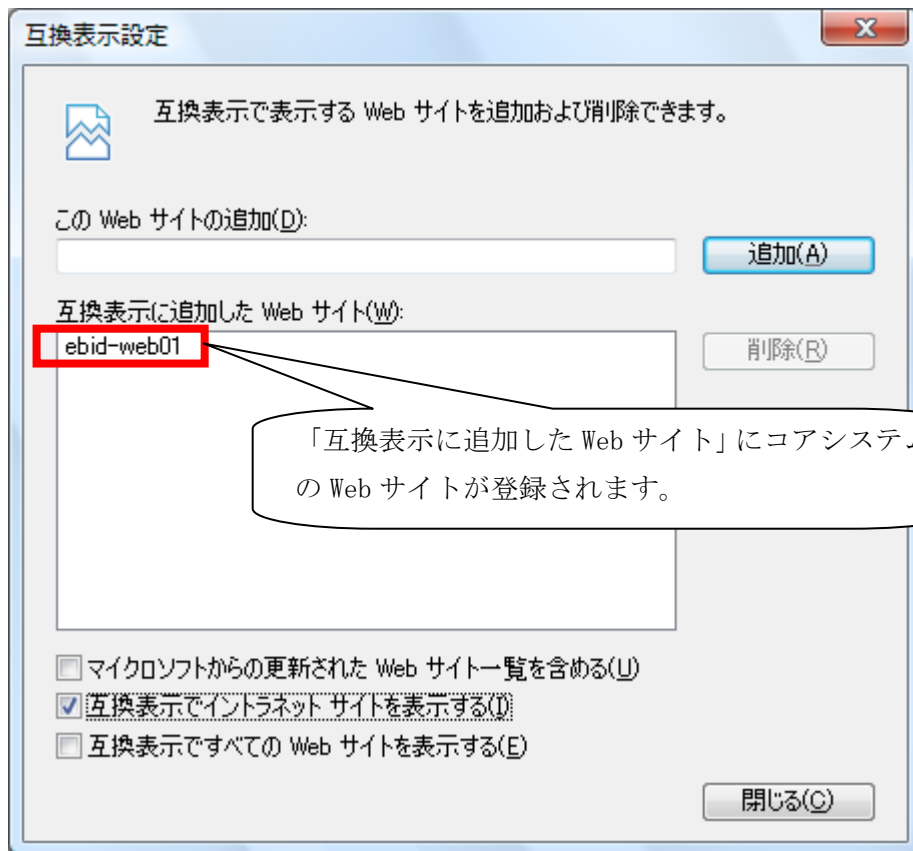
② コアシステムの Web サイトを互換表示対象の Web サイトに登録する

②-1 互換表示ボタンを押下する

コアシステムのトップ画面にて、アドレスバー横に表示されている互換表示ボタンを押下することで回避できます。

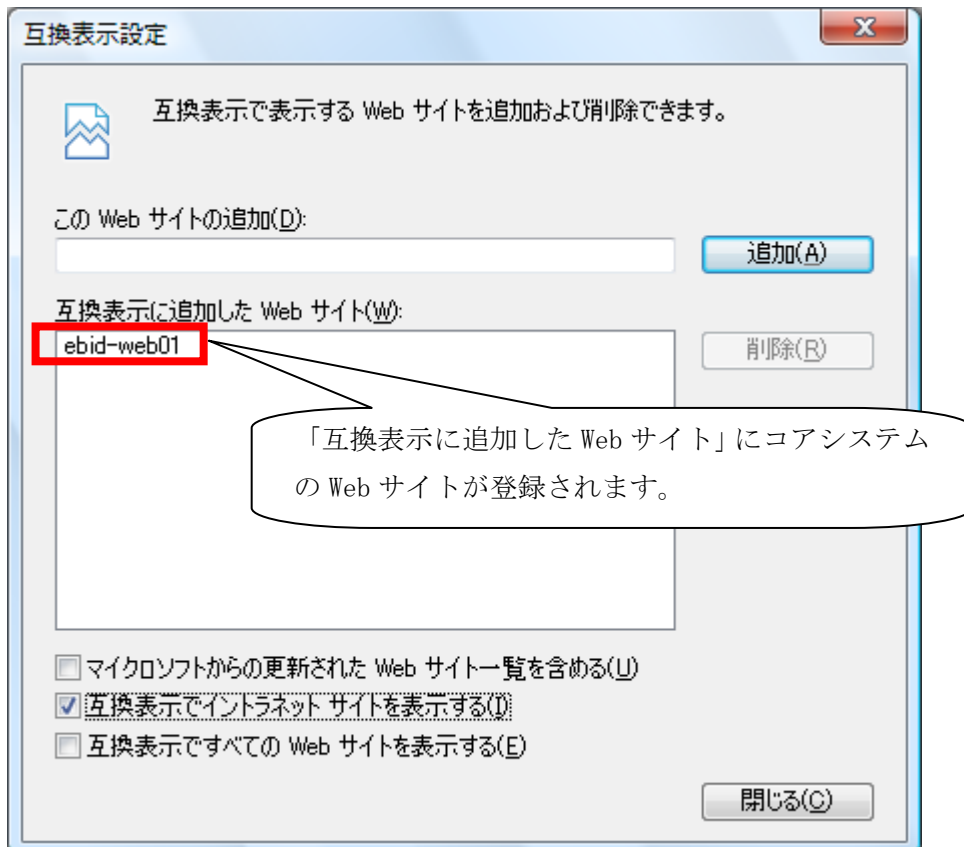
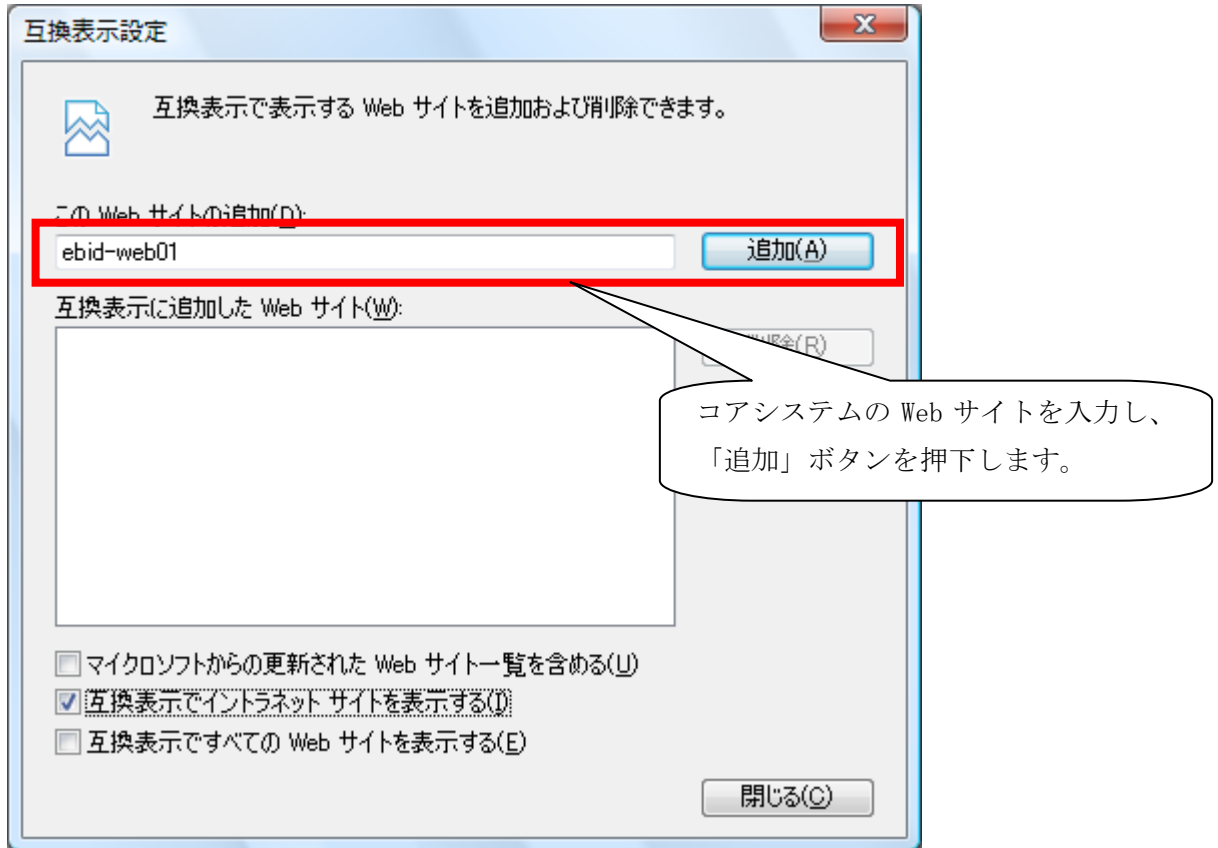


一度押下すると「互換表示設定」の設定画面にてコアシステムの Web サイトが「互換表示に追加した Web サイト」に登録されます。次回以降コアシステムにアクセスした際も設定が有効となり、再度ボタン押下の必要はありません。



②-2 コアシステムの Web サイトを手動で互換表示対象の Web サイトに登録する

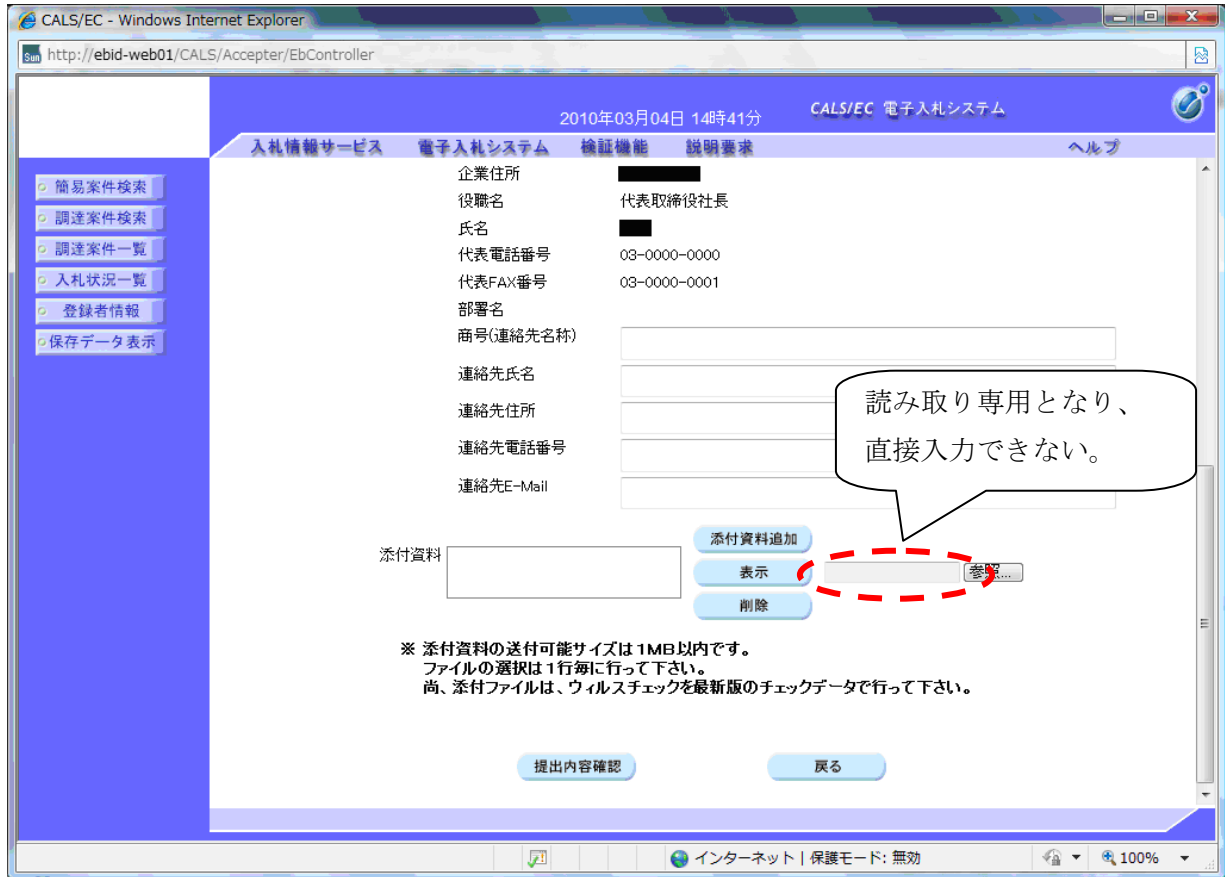
「互換表示設定」の設定画面にてコアシステムの Web サイトを互換表示対象の Web サイトに登録します。



【4】 ファイルパス編集ボックスに直接入力できない

<事象>

申請書等提出時のファイル添付の際、「参照」ボタン横のファイルパス編集ボックスが読み取り専用に変ったことで、直接入力が行えなくなりました。



<詳細>

IE8 のセキュリティ強化により、ファイルアップロードコントロール (<input type=file>タグ) のファイルパス編集ボックスが読み取り専用に変わりました。

(※) 参考「Internet Explorer 8 のセキュリティ:総合的な保護」－「ファイルのアップロード制御」
<http://msdn.microsoft.com/ja-jp/ie/dd218483.aspx>

「参照」ボタンを押下してファイルを指定する操作を行う場合は、上記の影響はありません。

以上

更新履歴	
2011/9/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ IE8 のセキュリティ強化による画面上の変化について追記
2011/6/10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象 1 「画面遷移時にスクリプトエラーが発生する場合がある」について、Windows 7 は対処不要である旨を追記 ・ 事象 2 「添付ファイルを提出する際にファイルパス情報が消失し提出できない」について、信頼済みサイトのセキュリティレベル「中高」以上の対処方法を追記